



代表取締役

前原 亮治

若くして建設業界で働き始め、直向きに腕を磨き、20代前半で独立。前勤務先のお世話になった社長の助力もあって、堅調に事業を推し進め、着実に信用と実績を蓄積する。人の長所を見つけて褒めて伸ばす人材育成方針や、スタッフの生活を一生サポートできるような会社を目指すなど、義理人情を念頭に歩み続けている。

株式会社 前原興業

【営業所】

神奈川県川崎市川崎区追分町 5-6
コスモアベニューカワサキ 102

仲間を何よりも大切に日々励み、皆が幸せになれる会社を共に築く

プラント工事や嵩工事、配管工事、鍛冶工事と幅広い建設工事に対応できる『前原興業』。同社の前原社長は、人とのつながりや共に働く人々を何よりも大事に、社の舵取りを担っている。本日は、そんな篤実な社長のもとをタレントの板東英二氏が訪問。お話を通じて、その横顔や経営観に触れた。

——まずは、前原社長の歩みから伺います。初めて就いたお仕事は何でしょう。

今関わっている建設業です。16歳の時から働き始め、遊びたい盛りの年頃でしたが、この仕事に合っていたようで休んだりすることなく腕を磨いていました。そうして経験を積む中、20代前半で独立。ありがたいことに、前勤務先の社長が仕事を回してくれまして、私は下請けとして順調に事業を進めていくことができました。今でもその社長とはお付き合いが続いていますよ。

プラント工事や嵩工事、配管工事、鍛冶工事を手掛けています。お客様は石油や化学プラント工場が多く、そうした大規模な工事を請け負えるのが当社の強みになっております。私たちは、何十トンもの重量物をワイヤーで吊り下げたり、大型のクレーンを使って備え付けたりできるんです。しかし、それだけ重いものを扱っていますし、一歩間違えれば事故故につながりかねませんから危険な仕事だからこそ私は、スタッフ皆の命や生活、人生を背負っているという覚悟を持って日々の仕事にあたり、積極的に営業活動も行っているんです。人がいてこそその会社ですからね。スタッフや協力会社の方々に感謝しています。

——そうした思いや姿勢は皆さんに伝わっていることでしょうか。人材育成など経営者として意識されていることはありますか。

基本的に私は、人の長所を見つけて褒めて伸ばす方針です。皆のモチベーション向上と維持にもつながるかなと。経営者として意識しているのは、「皆が働きやすい環境をつくる」ということです。それは私の責務だと考えており、事務所内には麻雀卓があるんですよ。これは、日ごとの現場が違って交流がなくなるとも、スタッフ皆が互いに少しでもコミュニケーションを取ればとの考えからです。

——スタッフさん思いですね。最後になりますが、今後の目標などをお聞かせ下さい。

スタッフたちの生活を一生サポートできるような会社になりたいです。と言うのも、この仕事は肉体労働ですから身体を壊して働けなくなる人も多くて、そうなった際に「もういいよ。ありがとう」ではつらすぎるでしょう。ですから、経済的なことなどで少しでも支えられる仕組みを整えたいと思っています。そんな会社にするべく今後も皆と共に励んでいく所存です。



ゲストインタビュアー

板東 英二
(タレント)

「スタッフさんの一生をサポートできるような会社にしたいという前原社長。『一度でも縁を得て、共に働いたら大事な仲間』という人情溢れる思いが感じられました。今後もそんな社長らしさを曲げずに歩んで下さい」